

学びの広場 2016

今月は、学校支援ボランティア第3回目、松田小学校の学校支援ボランティアをご紹介します。

『学校支援ボランティア 松田小学校』

【問い合わせ】教育課 生涯学習係 ☎(83)7021

多くのボランティアさんの支え

- ・松田小学校では
- ・登下校の見守り
- ・図書
- ・読み聞かせ
- ・学生による学習支援
- ・などさまざまな場面でボランティアさんに関わっていただいています。

夢いっぱい 大学生の学習支援ボランティア

大学生の遠藤さんと市村さんが、ボランティアで学習支援をしています。

将来子どもと関わる仕事に就くことを夢みて、現在松田小学校のボランティアとして週1回支援をしています。

遠藤さんは、現在大学4年生。昨年から引き続きです。朝「おはようございます。」のさわやかな声を職員室や教室に響かせます。各教科の支援に入っています。

市村さんは、10月からです。5月に教育実習に来校したばかりで子どもたちにはすっかり顔なじみです。市村さんは、音楽が得意なので、リコーダーや歌の指導を子どもたちと楽しくしています。

お二人は、休み時間にも子どもたちと一緒に遊び、給食時間は会話を弾ませています。



家庭科授業の市村さん



算数授業の遠藤さん



ズームアップ松田小内庭に「美しく咲く花々」



本の整理整頓中です

お話の世界へ読み聞かせボランティア 子どもたちが本好きなのは、大きな理由があります。それは、読み聞かせボランティアさんの存在です。毎週月曜日に、各学年に読み聞かせを行ってくださいます。子どもたちが教室の机を後ろに下げ、読み手の周りに集まるとそこは本の世界。ボランティアさんが読み始めると一気に本の世界に引き込まれます。

夢のお部屋へ 図書ボランティア

図書室は、季節感あふれ素敵な世界へ誘ってくれる空間です。子どもたちは、本が大好きです。それは、図書ボランティアさんの存在が大きいからです。ボランティアさんの手作り作品や整備された図書室が子どもたちの心を射とめています。図書室に行こうと関心を高め、本の世界へ自然に入り込み楽しんでいきます。

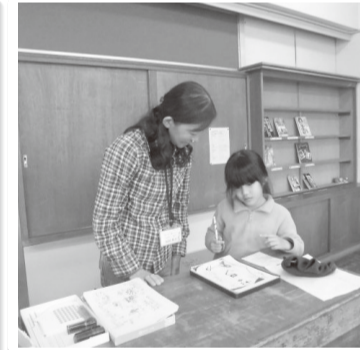
また、中休みには、児童図書委員に貸出しのアドバイスもしてください。

そして、本の修理、整理・整頓、室内の整備などたくさんある仕事を7人のボランティアさんができばきとやっってください。

いつも図書室は居心地よく多くの子どもたちでにぎわっています。



図書室や廊下の環境づくり



子どもの質問にも対応

目を輝かせた子どもたちは、クスツと笑ったり、「わあ」と驚いたりして心豊かに過ごします。二年生が国語「スイミー」を学習した時は、大型紙芝居（巻物）で教室を一周すると。教室がすっかり海の中の世界に変わりました。手作りの巻物の素晴らしいさに子どもたちは目を奪われていました。

これからも3人の読み聞かせボランティアさんのお世話になりながら、松田小学校の子どもたちは、もっともっと本好きになることでしょう。



情景を豊かに読まれるボランティアさんと情景を膨らませる子どもたち



本の世界に入り込む子どもたち

「青山街道本道争い」事件の概要について

この事件の発生は、明治の八年前の万延元（1860）年、神山・町屋対大門（河内）松田本村との間で「どちらの道筋が本道か」という争いがありました。

双方が小田原藩に訴願したが、松田本村側の申し立ては認められず江戸表に出て道中奉行に直訴したため、即時に捕えられ関係者は厳しい処分を受けました。

〔広報松田〕青山街道事件の真



《矢倉沢往還13》文化財保護委員 草門隆

松田の文化財探訪

その結果、文久3（1863）年6月小田原藩奉行所は、調停を金子村の間宮若三郎、庶子の弥兵衛他近村の名主4人に命じたが、その結果も同じでした。

松田本村側は本道としての実績づくりとして「おむろ様のお通り」と称した偽行列を企て、千村（秦野市）の泉蔵寺（延命寺の末寺）を出発し神山、河内、松田本村内から、矢倉沢村辺りまで仕立てた

翁は、この事件におけるお上藩の民への圧迫に理不尽さを感じ、その後の自由民権運動・国会開設嘆願に情熱を傾けたと言われています。

この紛争については、人馬継立場という公的機関を擁す神山・町屋の「公道側対近道側」として新興の道側との「守りと攻め」の「経済的要因」を多分に感じさせるものと思料します。

何れにしても「山と川とのあいだの関」の我が町の先人たちは、生計を営むため「一所懸命」だった姿が偲ばれます。

なお、この事件の命名並びに内容の紹介は、当町発展の恩人・中村舜次郎翁であると、昭和47年の「広報・松田」（写真）連載記事の中で、当町の郷土史家・井上清氏は述べられています。